

「日々の理科」(第 1545 号) 2018 (H30), 10, 01

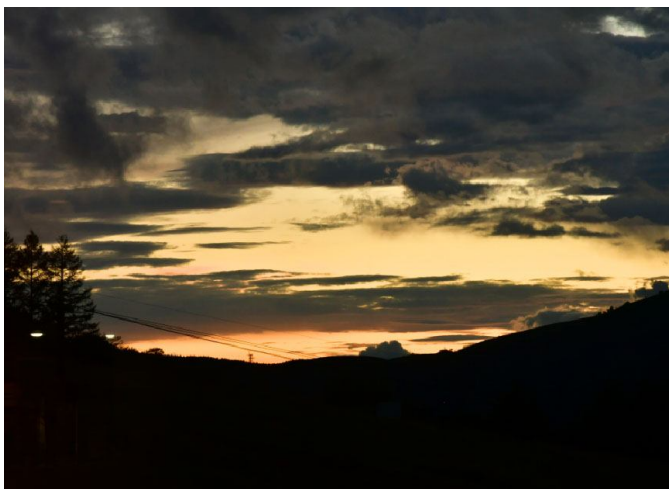
「子どもたちと天の川を見る」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

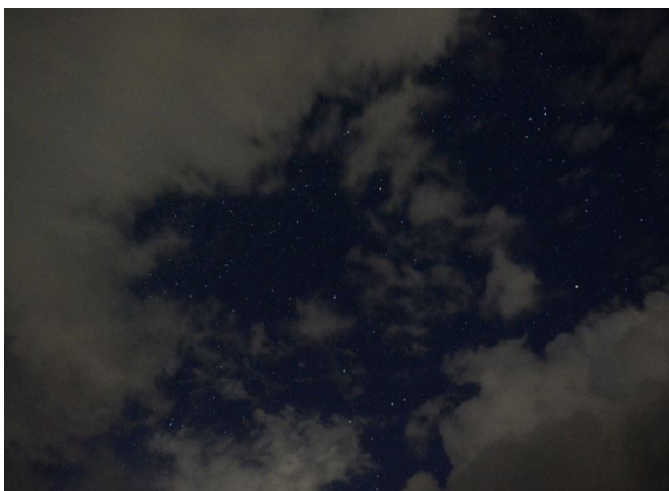
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

「林間学校」というのは、自然の中で人と人が関わ
り合うことに意味のある活動だと思う。2泊3日のわ
ずか3日の間に、どれだけダイナミックに自然に関わ
る活動を組めるか、それが林間学校「総号令」の力量
だと思う。この夏(8月)の林間学校で私は総号令を
務めたが、何よりもその点を念頭に置いていた。



子どもたちにどうしても体験させたかったことの
一つが「天の川の観望」である。二日目の晩、月の出
も少し遅くなり、天の川が見えるチャンスがやってき
た。この日は夕焼けが恐ろしく美しかった。



夕食を 18:30 に済ませて、子どもたちと外に出た。
今回宿泊した白樺湖近傍は、星空が美しいことでも知
られ、晴れていれば天の川も確かに見ることができる。
しかし最初は雲が邪魔をしていた。



私は子どもたちに「草っ原に寝転がって、天の川が
見えるのを待ちましょう」と指示した。子どもたちは
思い思いのスタイルで、天頂付近を見上げていた。そ
して待つこと 20 分、ついに天の川が見えた!



最初に織姫(ベガ)や彦星(アルタイル)が見えた。
次第に「夏の大三角」付近の雲が晴れ、天の川が姿を
現した。写真はその様子で、まだ右下に雲が残ってい
る。多くの子どもは天の川を見るのは初めてで、「ふ
わあー」とも「うわあー」ともつかない、ため息のよ
うな歓声をあげていた。天の川は、我々人類が住む銀
河系の姿そのものである。この深宇宙の姿を、子ども
たちと見ることができ、私も嬉しかった。